

市民の喜びの声



黒崎信子さん (本村)

15年前に亡くなった夫が排水を行うポンプ係として万田坑に勤めていました。夫は仕事熱心な人でした。夫の職場が世界遺産に登録され、とてもうれしいです。天国の夫も喜んでくれると思います。



① 梨果樹園
村岡奉哉さん (上赤田)

荒尾おもて梨直売会では万田坑の入場券を持参し、梨を購入した人に梨1個をプレゼントするキャンペーンを10月末まで開催中です。「おもてなし(梨)」で、万田坑の世界遺産登録を盛り上げます。



万田小学校 6年
徳満優莉奈さん (万田中)

学校で万田坑の世界遺産登録を祝う看板を作りました。地下264mでの石炭の採掘など万田坑のことを多くの人に知ってほしいです。見学者にきちんと説明できるよう、私も勉強していきます。

万田坑世界遺産登録記念特集

陽はまた昇る

三池炭鉱の中の万田坑

明治35(1902)年に出炭を開始し、坑内運搬の効率悪化のため、昭和26(1951)年に採炭が中止された万田坑。以来、坑内揚水の管理施設として稼働し、平成9(1997)年の三池炭鉱閉山時、1世紀の歴史に幕を下ろしました。閉山から18年目のことし7月、万田坑が世界文化遺産に登録。止まっていた時計の針が再び動き出しました。



万田坑ガイドの皆さんと万田保育園の皆さん

日本近代化の礎

三池炭鉱万田坑や三池炭鉱専用鉄道敷跡を含む「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」は、8県11市にまたがる23の資産で構成される近代化産業遺産の集合体です。

18世紀半ば、19世紀に欧米で発展した産業革命の影響を受け、日本も西洋諸国に対抗するため、産業の近代化に乗り出します。日本の産業革命の原点は絹・綿・石炭・製鉄・造船です。これらを輸出することで外貨を獲得し、近代化に必要な機械や技術を導入しました。

日本は19世紀後半からおよそ50年という短期間で製鉄・製鋼、造船、石炭産業の急速な産業化を達成。経済的な発展を成し遂げる礎となりました。このような日本の産業化は、西洋諸国から技術・知識・機械などを積極的に導入し、日本独自の技術と融合させ、試行錯誤を繰り返しながら達成されました。

三池炭鉱は当時の日本が世界の主力エネルギーであった石炭を国内で調達することに大きな役割を果たしました。また、政府が官営炭鉱だった三池炭鉱を三井に払い下げたことで、三井財閥はその基礎を築き、三池エリアに炭鉱を中心とする石炭化学コンビナートを設立しました。まさに三池炭鉱関連施設は日本の産業化の象徴だったのです。

高品質で豊富な埋蔵量の三池の石炭は明治・大正・昭和の日本の産業化を支えました。それだけでなく、石炭は私たちのまちなちの発展・繁栄に大きく貢献しました。今でも、まちなちのあちこちに炭鉱のまちなちの姿が残っており、その歴史を後世に伝えていきます。